

ジブチ月例報告 (2026年6月)

在ジブチ日本国大使館

【内政】

- 6月17日、ナギブ首相府次官は、各省庁次官級会議を主宰し、ゲレ大統領から示された①政府の最優先課題としての包摂的開発、②工業化及び成長セクター投資による経済開発、③社会開発の強化、④経済・地政学的危機の管理及び強靱性の強化、⑤結果主義の効率的ガバナンスの5つの政府方針を実施するため、省庁間調整及び省庁行動計画の監視の実践的な方策に関する調整を行った。
- 6月27日、ゲレ大統領は、ジブチ共和国独立49周年に際して、国民に向けたスピーチを実施した。ゲレ大統領は、スピーチの中で「我が国の軍事・治安部隊に心からの敬意」を表明し、「将校、下士官、兵士及び一般兵士は我が社会の平穏・安寧を支える屋台骨である」と述べた。また、「我が国の独立と経済発展に不可欠なサービスを実現するために日々努力している献身的な国民に、私から敬意及び感謝を表明したい」と強調した。

【外政】

- 6月15日、ジブチ外務・国際協力省は、米・イランの停戦合意成立を歓迎するコミュニケを発出した。
- 6月18日、新たに大使として任命された、ファブリツィ(S. E. M. Sem Fabrizi)伊大使、レンナートソン(S. E. M. Karl Magnus Lennartsson)スウェーデン王国大使、クローグストルップ(S. E. M. Sune Krogstrup)デンマーク王国大使、ミゲル・ヌトゥトゥム・エヴナ・アンデム(S. E. M. Miguel Ntutumu Evuna Andeme)赤道ギニア共和国大使、ムヴァングア(S. E. M. Mbapeua Muvangua)ナミビア共和国大使、タナワット・シリクル(S. E. M. Thanawat Sirikul)タイ王国大使、ラドリゲス(S. E. M. Andy Rafael Radriguez Duran)ドミニカ共和国大使、アルモン・マンバ(S. E. M. Mahlaba Almon Mamba)エスワティニ王国大使の信任捧呈式が開催された。
なお、今回任命された8名の大使は、ドミニカ共和国大使(リヤド・サウジアラビア)を除きアディスアベバに駐在する。
- 6月22日、ゲレ大統領は、6月1日に実施されたエチオピア総選挙において勝利した与党繁栄党の党首であるアビィ・エチオピア首相へ再選祝辞を発出した。
- 6月25日、イリヤス経済・財政大臣(産業担当)兼RPP党(Rassemblement Populaire pour le Progres)事務局長は中国を訪問し、中国共産党中央対外連絡部の劉海星(M. Liu Haixing)部長と会談した。

- 6月26日、アリ・ハッサン・ジブチ外務・国際協力省次官は、スペインを訪問し、マルティネス・ベリオ (S.E.M. Diego Martinez Belio) スペイン王国外交・グローバル問題担当長官と共同議長を務める第1回ジブチ・西政策協議を開催した。
- 6月27日、ゲレ大統領は、ジブチ独立49周年記念行事に参加するためジブチを訪問中のハッサン・ソマリア大統領と会談し、二国間協力強化及びソマリア全土における安定の回復を支援するための方策について議論した。
- 6月29日、ゲレ大統領は、ジブチを訪問中のアルカイス (M. Mustafa Alkayis) トルコ・ジブチ友好議員連盟会長の表敬訪問を受けた。

【経済・開発】

- 6月1日、ディレイタ国民議会議長、ファルドウッサ青年・文化大臣及びダルダリ (Dr. Abdallah Al-Dardari) UNDP 総裁補兼アラブ局長出席の下、「若者の福祉及び繁栄のためのポートフォリオ」に関する式典が開催され、若者のための統合されたエコシステムを構築することを目指す意向表明書が3者間で署名された。
- 6月2日、ジャマ・エネルギー大臣（天然資源担当）は、イオネット当地EU大使との間でエネルギー部門の変革及び農村地域の電化を支援するため、国家エネルギー協約 (PNE) に焦点を当てた意見交換を行った。
- 6月17日、ドラレ多目的港 (DMP) において、中国の協力により海上気象サービスが正式に開設した。
- 6月21日、ジャマ・エネルギー大臣（天然資源担当）は、フセイン (M. Hussain Sultan Lootah) エミレーツ国営石油会社 (Emirates National Oil Company) CEO 兼ホライゾン・ジブチターミナル社 (Horizon Djibouti Terminal Limited) 取締役会会長と会談し、戦略的パートナーシップの強化及び構造的なエネルギープロジェクトの実現を通じた将来の協力について意見交換を行った。
- 6月19日、イリヤス経済・財政大臣（産業担当）は、アゼルバイジャンのバクーで開催されたイスラム開発銀行 (IsDB) グループ年次総会のマージンで国際イスラム貿易金融公社 (ITFC) との間で2026～2029年を対象とする総額7億5,000万ドルの新たな商業金融枠組み協定に署名した。
- 6月22日、イリヤス経済・財政大臣（産業担当）は、北京で楊東寧 (Mme. Yang Dongning) 中国輸出入銀行 (Exim bank) 副総裁と会談し、中国との産業協力を強化するための新たな製造業、技術協力、輸出志向の加工分野への投資誘致を柱としたロードマップを提示した。

【保健・衛生・社会】

- 6月11日、中国国際報道通信センター（C I P C C）の2026年プログラムに参加しているジブチを含むアフリカ、アラブ、ユーラシア圏のジャーナリストが、万里の長城等を訪問した。
- 6月17日、ゲレ大統領は、コンゴ民主共和国及びウガンダにおけるエボラ出血熱の流行対策に係るオンライン会議に参加した。同会議ではグテーレス国連事務総長、エヴァリスト・ンダイシミエ・ブルンジ大統領（アフリカ連合（A U）議長国）を始めとする首脳級、閣僚級の高官がオンライン参加した。

【軍事・治安】

- 6月7日、駐ジブチ仏軍（F F D j）は、ジブチ地域訓練センター（D R T C）と共催し、アルジェントン（M. Milos Argenton）E U海軍部隊アスピデス作戦司令官（伊海軍少将）、海事担当関係者等を招き、紅海及び西インド洋の海洋安全保障に関する課題を議論し、「ジブチ行動規範（Code de conduite de Djibouti）」の発展について検討した。
- 6月18日、国際民間防衛高等教育機関（l' École Supérieure Internationale de Protection Civile）において、10か国から14名の消防士が受講した研修の修了式が開催された。
- 6月22日、国家警察創設49周年式典が開催され、バードン法務・刑務大臣（人権担当）、オマール内務大臣等が出席した。
- 6月24日、ゲレ大統領は、ジブチ独立49周年の機会に、65名の収監者に対し恩赦を与えた。
- 6月25日、ゲレ大統領は、ジブチ軍病院に新たに開設された心臓外科部門の開所式を主宰した。
- 6月25日、サフィア・デジタル経済・イノベーション担当大臣は、イオネット当地E U大使、E U海軍関係者、モハメド・ジブチ・テレコム総裁等と会議を行い、ジブチ海域における海底ケーブルの重要性を訴えた。ジブチ海域には約15の海底ケーブルシステムが通過し、大陸間インターネットトラフィックの約17%を伝送しているとされる。
- 6月27日、ジブチ独立49周年記念軍事パレードが実施された。
- 6月27日、ザッカリア統合参謀総長は、ジブチ国家警察の能力強化に向けた独軍の取組を称え、シュナイダー（M. Gunter Schneider）独中將にゲレ大統領の名代としてジブチ国家大星勲章コマンドゥール章を叙勲した。
- 6月30日、ジブチ空軍の第5期専門将校数名が、露で5年間のパイロット、航空整備士、航空兵器等の分野を専門とする課程を修了した。

【日本関係】

- 6月8日、令和7年度補正UNIDO案件「ジブチにおける食料安全保障向上のための水産バリューチェーン強化」開始式典が実施された（大河内大使出席）。
- 6月11日、在ジブチ日本大使館は、ハッサン外交研究所長（前ジブチ日議連会長）への在外公館長表彰授与を行った。
- 6月22日、草の根令和6年度案件「ディキル市医療センターにおける小児病棟拡張計画」の引渡し式が実施された（大河内大使出席）。
- 6月24日、EU代表部、ジブチ政府及び在ジブチ日本大使館は「脅威と課題から地域対処へ」と題したシンポジウムを共催した。同シンポジウムにはサイド・インフラ・設備大臣、オマール内務大臣、ワイス沿岸警備隊長官を始めとするジブチ政府高官、外交団、各国駐留軍司令官等が参加した。紅海におけるホーシー派の船舶攻撃、海賊行為の再燃及びホルムズ海峡における航行の自由の軽視を踏まえ、地域の海洋安全保障に貢献し、国際海運の要衝であるバブ・エル・マンデブ海峡を擁するジブチの繁栄につなげるため、戦略・運用上、国内外のパートナーとどのように効果的に調整すべきか等、実務者による発表が行われた。日本からは、瀬田・早稲田大学教授（国際海洋法）、田中・派遣海賊対処行動支援隊(DGPE)司令が発表を行った（大河内大使出席）。

（了）